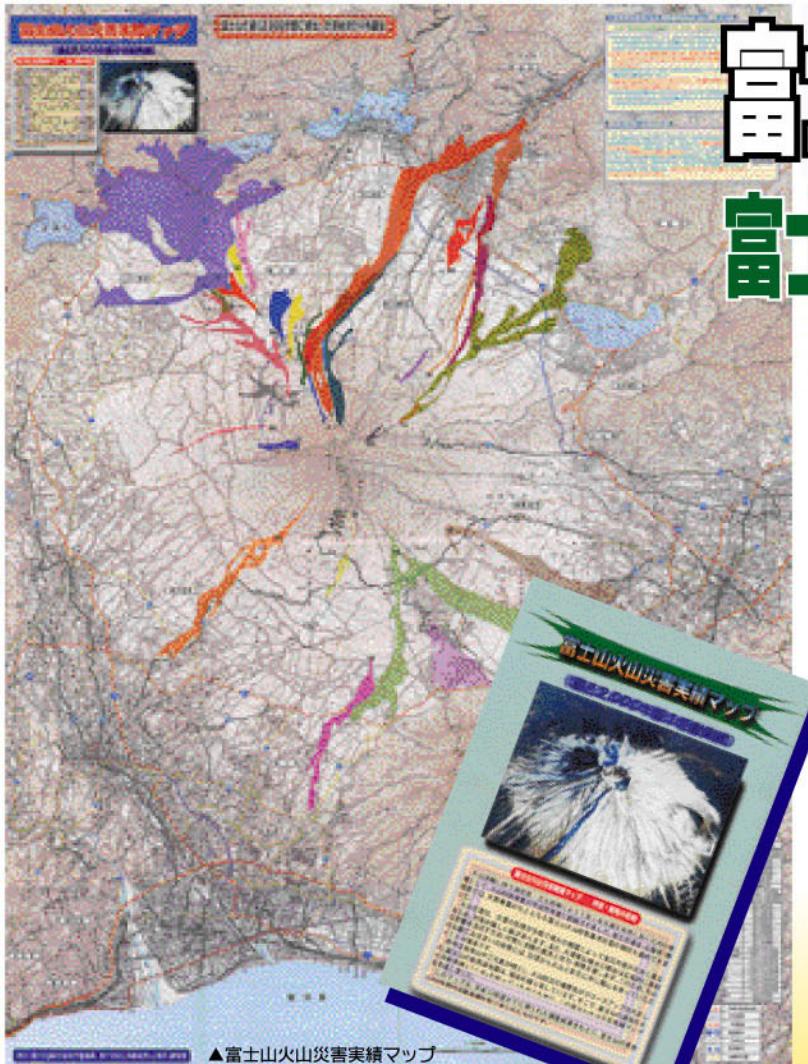




FUJI SABO通信

ふじあざみ

発行
国土交通省中部地方整備局
富士砂防工事事務所
富士宮市三園平1100
電話0544(27)5221
<http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>



▲富士山火山災害実績マップ

- 「富士山火山砂防基本計画検討委員会」の監修のもと、現時点の調査報告をもとに、過去2,000年間の溶岩流や降下火山灰・火山礫の分布範囲を1/50,000地形図に示しました。
- 富士山の噴火と周辺の地形の特性と、人家や道路の所在が把握できます。火山災害に関する基礎知識も掲載されています。

富士山火山災害実績マップとハザードマップの違い

実績マップは過去に起きた火山溶岩流や降下火山灰・火山礫などを図面上に掲載したもので、ハザードマップ（火山災害予測区域図）は、火山噴火の位置や規模を予測想定し、火山噴火に対し対応策等が読み取ることができるマップです。

また、溶岩流の流出は地形を大きく変えるため、次の噴火が同じ地点で発生したとしても同じように流れ下るとは限りません。

富士山火山防災ハンドブック改訂版

昨年3月に作成された活火山・富士山をわかりやすく解説した「ハンドブック」の第2版の改訂版ができあがりました。低周波地震についてさらに詳しく解説、充実した内容となっています。御殿場、裾野、小山、富士宮、富士の各市町では独自の予算により、このハンドブックを増刷し、全戸配付が決まっています。

富士山火山防災情報

富士山火山災害実績マップ を関係市町村へ配付

富士山の火山活動にともなっておこる土砂災害を未然に防ぐ目的で富士砂防工事事務所は、山梨県、静岡県とともに富士山の火山砂防基本計画の検討を進めてきました。火山災害は、災害の形態が多様で、大規模な噴火の場合は広域的に深刻な影響を及ぼすため、日頃から火山と防災に关心を持っていただくことが重要です。そこで、富士山の過去の噴火活動に伴う影響のあった範囲を図示した「富士山火山災害実績マップ」を作成し、7月上旬に富士山周辺の市町村及び関係機関に配付しました。

第2回 富士山線のゼミナール報告

6月14・15日の2日間にわたり、中学生ら約600名が参加し、富士山の植生と市民参加の森づくりについて学びました。

土砂災害防止月間活動報告

6月1日から30日の間、みなさんと土砂災害についての啓蒙を高める様々な活動を行ないました。

- 寺本和子教授による一日事務所長
- 街頭キャンペーン
- パネル展
- 砂防フェスティバルしおか
- フーちゃん公園花植え

大きくなつて守つね! [リサイクルポット苗木]を植樹

遊砂地の内部や渓流の周囲に砂防樹林帯を造成するため、東三郎北海道大学名誉教授が考案したリサイクルポット苗木を9つの小中学校と協力し、夏休みを前に、植樹を実施しました。

平成13年度 砂防学会研究報告会

平成13年度 富士山源頭部調査工事 ～4の滝保護工に着手～

富士山噴火対策が始動!

中央レベルで

7月11日

富士山ハザードマップ作成協議会の初会合を開く

万が一の富士山噴火に備え、的確な防災対策をすすめるための基礎となる火山ハザードマップ（災害予想図）の作成にむけた、内閣府・総務省・国土交通省・山梨・静岡・神奈川県と富士山周辺の15市町村からなる「富士山ハザードマップ作成協議会」の第1回会合が東京で開催されました。学識経験者らが構成する「富士山ハザードマップ検討委員会」に諮問し、協力して噴火も見据えた安全な地域づくりを検討します。渡辺富士宮市長から富士砂防の先見的で積極的な活動を紹介し、具体性のある論議とさらに予知に向けた観測体制の整備を要望しました。



▲村井防災担当大臣（中央）、佐藤国交副大臣（右）、松下総務省政務官（左）

富士山ハザードマップ作成協議会

神奈川県、山梨県、静岡県、小田原市、秦野市、南足柄市、山北町、箱根町、富士吉田市、河口湖町、上九一色村、山中湖村、鳴沢村、御殿場市、裾野市、富士市、富士宮市、小山町、内閣府（防災担当）、総務省（消防庁）、国土交通省（河川局砂防部、気象庁、関東地方整備局、中部地方整備局、東京管区気象台）

- ハザードマップの作成
- 各種防災計画等への反映
- ハザードマップの住民等への周知

富士山ハザードマップ検討委員会

学識委員会 ●委員長 荒牧先生 ●副委員長 新谷先生
行政委員 ●内閣府（防災担当） ●国土交通省（河川局砂防部、気象庁）
●総務省（消防庁） ●山梨県 ●静岡県 ●神奈川県

防衛庁、文部科学省、農林水産省（林野省）、国土交通省（総合政策局観光部、中部地方整備局、関東地方整備局、国土技術政策総合研究所、東京管区気象台、国土地理院）、神奈川・山梨・静岡（各県の土木部局）、東京都、小田原市、秦野市、南足柄市、山北町、箱根町、富士吉田市、河口湖町、上九一色村、山中湖村、鳴沢村、御殿場市、裾野市、富士市、富士宮市、小山町

ハザードマップ案の検討

火山災害マップ作成会

ハザードマップの基礎となる火山災害マップの検討

反映

ハザードマップ活用部会

防災機関における情報

流れや活用などを踏まえた

ハザードマップの検討

火山噴火予知連絡会

（富士山ワーキンググループ）
●富士山についての噴火シナリオ等の検討

7月16日

富士山ハザードマップ検討委員会の初会合を開く



▲荒牧委員長（左）、新谷副委員長（北大教授）

①過去の噴火災害資料の調査、②噴火シナリオの想定や予測シミュレーション、③ハザードマップの活用方法などを検討し、平成14年度末までに被害が及ぶ範囲や避難地など位置を示すハザードマップを完成させる方針です。

協議会の諮問をうけて、荒牧重雄東大名誉教授を委員長とする学識経験者や行政防災担当者らで「富士山ハザードマップ作成検討委員会」が設立され、7月16日に初会合が開かれました。



▲森 國土交通省河川局砂防部長

昨年3月の有珠山、6月の三宅島の噴火と、10月以来の富士山の低周波地震の激増を契機に、地元ばかりでなく富士山の噴火に対する国民的な関心が非常に高まっています。静岡県、山梨県、そして中央レベルで、富士山の噴火に備えて様々な機関による積極的な取り組みが展開されています。富士砂防工事事務所も、従来から火山砂防計画の検討をより充実させ、特に今年度は山頂や山麓の現地調査など、富士山ハザードマップ検討における火山噴火に関する基礎的調査を集中的に実施します。



▲現地対策本部

6月3日

山梨県 火山総合防災訓練

富士山噴火に備え、初の実践的訓練が山梨県主催により実施されました。富士吉田市、河口湖町、鳴沢村など周辺10市町村の共催で、河口湖町民グラント・市民体育館を中心に消防、県警、陸上自衛隊、観光団体など58機関、約1万5千人の参加のもと開催されました。

これら機関と自主防災組織等が一体となり、相互連携の



▲自衛隊車両での市町村長による被災状況確認

強化、迅速かつ安全な避難体制の確立と防災意識の高揚を目的とし、富士山4合目の北斜面から噴火、溶岩流出、降灰降下、土石流発生を想定した訓練でした。中央防災会議は内閣官房の危機管理担当参事官らを先遣隊として現地対策本部へ派遣し、国土交通省からは関東整備局甲府工事事務所、富士砂防工事所長も現地対策本部へ同席しました。

訓練は、家屋の倒壊、道路の寸断、林野火災を想定し、避難、救出や緊急復旧、消火作業等を行い、群馬、長野県等からの防災ヘリも飛来しました。観光へのイメージダウンの懸念から地元では噴火をタブー視する傾向が強かったのですが、活火山富士山との共生に向けスタートを始めました。

5月22日

静岡県 火山防災情報伝達訓練

5月22日静岡県防災局は臨時火山情報を想定し、国土交通省、陸上自衛隊、警察、富士宮市、富士市など9市町が参加し、行政機関の内部での連絡態勢の確立や、防災無線による地元住民への連絡による初めての火山防災情報伝達訓練を行いました。

7月18日

富士山火山防災対策連絡会開催

7月18日、静岡県と富士周辺自治体などでつくる「富士山火山防災対策に関する連絡会」が県庁で開かれました。噴火予知連富士山ワーキンググループやハザードマップ作成協議会の今後の活動方針など、富士山防災対策の現況について情報交換をし、理解を深め、富士山災害実績マップの内容も紹介されました。

「富士山防災シンポジウム—火山災害に備える」の開催



▲活発な意見が多く出された第2部シンポジウム

5月25日「富士山火山防災シンポジウム」が、読売新聞社の主催、山梨県、富士吉田市、河口湖町、テレビ山梨、静岡第一テレビ、富士砂防工事事務所の後援、富士急行の協賛により、富士五湖文化センターで開催され、地元山梨県ばかりでなく、静岡県からの参加者も含め、700名が集まりました。基調講演でまず荒牧重雄東大名誉教授は「いくつものシナリオを想定し、噴火災害に備える必要がある。火山を知ることが被害を少なく食い止める。」と強調。次いで、三松三朗・三松正夫記念館長の講演では、北海道の有珠山の噴火を二度経験され、「火山とは友達、皆さんも火山と親しくなってほしい」と話されました。第2部のシンポジウムは、コーディネーターに荒牧教授を、パネリストに三松氏のほか花岡富士砂防工事事務所長、小佐野河口湖町長、中村河口湖観光協会長、笛木山梨県消防防災課防災監、女優・岸ユキさんを迎える、噴火への具体的な備えや防災訓練の意義などについて討議しました。

第2回富士山緑のゼミナール実施

自然植生と森の機能、住民参加による植生復元を学ぶ

6月14・15日の2日間にわたり、富士砂防工事主催、静岡森林管理署、静岡県、富士宮市、富士市、富士宮自然の森づくりの共催で「富士山緑のゼミナール」が国・静岡県・市町担当職員とともに地元中学生や一般市民が参加し開催され、あわせてリサイクルポットの作成や潤井川流路工への植栽が行われました。

初日の会場は富士宮市民文化会館で、東三郎北海道大学名誉教授と国立科学博物館植物第一研究室の近田文弘室長をお招きし、富士宮四中、北山中の生徒など約650名が参加して開催されました。

二日目は初めて富士市で開催され、富士市消防防災庁舎大会議室において東名誉教授、そして藤原一繪横浜国立大学教授をお招きし、吉原二中の生徒約450名の参加のもと開催されました。

ゼミナールをとおして、富士砂防が積極的に取り組んでいる市民参加の砂防樹林帯づくりの基礎となる富士山の自然特性とその機能と森づくりの方法を理解し、「富士山100年プロジェクト3776構想」を的確に推進するとともに、子供たちの自然に対する心と視点を育むものです。



▲想い出に残る有意義なゼミナールとなりました。



北海道大学名誉教授
東三郎先生

「森の働きと市民参加の森づくり」

「人間が森から木材や山菜、動物を獲りつづけ、恵みを受けるだけだったが、これからは森にお返しをする時代。人間は自然があってこそ生きられるのだ、森がなくなると人間はもちろん、同じ生き物である動物たちも消えてしまうこと。環境を守る方法は無限。」と語り、自らが支援するリサイクルポットによる市民による多様な植生復元の実践活動を紹介しました。



国立科学博物館 植物第一研究室室長
近田文弘先生

「富士山の自然と人」

富士山の自然と人の関わりを世界各国のスライドを使い、富士山の自然の大切さや恵みを紹介されました。そして、自然に感動することの大切さ、自然を「理科の目」で見ること、富士山を身近に感じることのできる幸せを軸に、感動する心と科学的な視点による観察の重要性を強調し、会場の中学生ら、若い世代が若い感性をもって自然への感受性を深めることへ大きな期待を熱く語りました。



横浜国立大学教授
藤原一繪先生

「富士山の自然植生と森づくり」

まず、富士山の標高につれ植物が変化していく垂直分布による植生の構造を紹介されました。そして、富士山スパイラーラインの開通当初(昭和39年)からの植生の衰退と再生を、植生環境調査に基づき解説し、森内への日光や風の変化の植生への影響と、生態系など自然界のバランスを紹介されました。植物や自然が人間にとていかに大切か、そして日本のシンボル富士山を21世紀に引き継ぐ重要性も強く訴えられました。

▼緑のゼミナール会場の風景



声

一般

- リサイクルポットは誰でも参加でき、苗木の生長にも触れることができる素晴らしい発案ですので、県民全体で取り組むことが望されます。我が家では早く、孫と苗木を比較しながら確かな生長を楽しみにしたいです。(建設会社 田村さん)
- 富士山の自然を守るというテーマに向けて次世代を担う多数の参加が得られて良かったと思います。東教授の「森づくりの一歩は、自ら種をまき、木を育て、感動を得ることから始まる」という言葉が印象的でした。(環境保全課 檀山さん)



▼雨の中、みんながんばって植樹しました。



▼生徒たちにこやかに説明する東教授。



声

中学生

- 先生方の体験や研究などを色々聞くことができて、いい勉強になりました。「本当にこんな簡単でいいの?」と、リサイクルポットには驚きました。植樹は、いつかやってみたいと思っていたので、嬉しかったです。(中学2年 久高綾香さん)
- リサイクルポットは中学生でも材料があればすぐに作れるので、作っているとき楽しく作れました。これから育つ木が富士山の自然の一部として富士山を守っていってくれると良いなと思いました。(中学2年 岩崎愛さん)

▼質問をする参加者。



声

講師の感想

- 苗木が定着するのか? じつは心配だった1年目の現地学習。生徒たちが心を込めて植え、砂防職員の温かい保育のお陰で結果は上々。ケヤキ・ヤマボウシ・コナラ・カエデなどが元気な姿で迎えてくれた。2年目の今年は、潤井川に雨の中ポットが並べられ、興奮しながらの記念撮影。また、富士市でのぎやかなポットの作成、別れの握手攻めに感動しきり。わが力ミネッコンは思いもかけぬ幸せを呼んでくれた。(東三郎先生)
- 私の講演の題は「富士山の自然と人」でした。私はこの講演で富士山を例にしながら人が自然環境に関心を持つためには、第一に自然を感じる感性を、第二に自然を科学的に探究する知性が大切であることを話したいと思いました。特に中学生時代の自然体験が大切なのです。(近田文弘先生)

みんなで防ごう土砂災害 土砂災害防

梅雨を迎える6月1日から1ヶ月を土砂災害防止月間として、街頭キャンペーンやパネル展、パーちゃん公園花植え、寺本和子教授による一日事務所長などを通じ、土砂災害に対する様々な啓蒙活動と情報提供などを行ないました。

寺本和子教授による一日事務所長

6/18

6月18日、豊橋創造短大教授の寺本和子さんを一日事務所長にお迎えしました。寺本さんは、1988年、建設省初の女性所長として富士砂防工事事務所長に就任し、2年5ヶ月間務めました。富士砂防で委嘱状を受けた寺本さんは「富士砂防は国内の砂防事務所の中でも一番注目され、独自の事業を進めています。誇りをもって仕事をしてほしい。」と訓示し、かつての職場に懐かしさを隠せないご様子でした。そして、文書決裁、砂防施設などの現場視察、富士市長との懇談や治山・砂防を担当する若手女性技術者と富士行政センター長を招いた「女性座談会」などを精力的にこなしました。



▲渡辺富士市長を表敬訪問



▼真剣な表情で文書決裁



▼20周年の記念植樹に10年ぶりに。

昨年11月、大沢崩れで発生した土石流を食い止めた砂防施設などを視察。「私たちが進めていた事業は決して無駄ではなかった。」



▼砂防施設などの事業現場を視察



◀富士行政センター長
大沢由紀子さん



女性座談会

テーマ「美しく緑豊かな富士山をつくる」

寺本教授と、フジアザミを導入した、静岡大学増沢教授をコーディネーターに「緑・植生で富士山を保全するためには」、「富士山を活かした街づくり」、「若手技術者へのアドバイス」などのテーマで座談会が行なわれました。



●コーディネーター●
フジアザミを導入した / 増沢武弘教授

座談会概要（寺本和子さんの話）

生物学を教えていますが、経験談を交えて毎日楽しく授業を展開しています。若手女性に意見するなら、私は「辞表を出すのは簡単だから、やれるところまでやってみよう」という感じでやってきました。仕事については、最初は不満だらけで、面白い仕事もあればつまらない仕事もある。大変なときもあれば楽なときもある。前向きに仕事を考えることが大切だと思います。

パネリスト

- 豊橋創造大教授………寺本和子
- 富士行政センター長………大沢由紀子
- 林野庁静岡森林管理署………幾井美雪
- 静岡県土木部砂防室………高藤夕夏
- 富士砂防工事事務所………水田小百合

止月間の実施活動報告

街頭キャンペーン

6/1



◆道の駅「朝霧」にてチラシを配付。



▲ミス富士山、あまつばめくん、ご協力ありがとうございました。

6月1日、道の駅「朝霧」にて街頭キャンペーンを行ないました。ミス富士山の中山梢さんとあまつばめくんにもご協力いただき、土石流模型実験装置を用いて、土石流の怖さと砂防施設が果たす役割を実演説明しました。

パネル展

6/5

6/11



▲パネル展示



▲富士山大沢崩れ1/1000スケール模型展示

富士川楽座、4階展望ラウンジにてパネル展が行なわれました。砂防に関するパネル展示、土石流や大沢崩れに関するビデオの上映、パンフレットの配付を行ないました。期間中約3,500人の来場がありました。

砂防フェスティバルしづおか

6/17



◆ステージではさまざまなイベントが行われました。

▼ミス富士山、ご協力ありがとうございました。



▲パネル展示

静岡市青葉シンボルロードで、クイズラリー、模型による土石流のシミュレーション実演など、多彩な催しとともに、ミス富士山の佐野小百合さんのご協力や、SBSラジオの公開生放送などもあり、大人から子供まで楽しみながら土砂災害への理解を深められる、楽しいイベントとなりました。

フーちゃん公園 花植え

6/25



▲園児たちと協力して季節の花を植えました。

大きく
元気に
育ってね!

潤井川流路工新田橋下流左岸のフーちゃん公園で、地元の上井出保育園園児のみなさんといっしょに花の苗を植えました。毎年恒例となり、園児のみなさんも楽しみにしており、「きれいだね」「可愛く咲いてね」と話し掛けながらひと株ずつていねいに植えていました。

大きくなって守ってね!

[リサイクルポット苗木]を植樹

～小中学生が苗木を植樹しました～

富士砂防工事事務所では、遊砂地の内部や周囲に土石流の勢いを軽減する砂防樹林帯を造成するため、東三郎北海道大学名誉教授が考案したリサイクルポット苗木を9つの小中学校と協力し、夏休みを前に、植樹を実施しました。



▲井之頭小学校(64名)

▲楽しくポットが作されました。

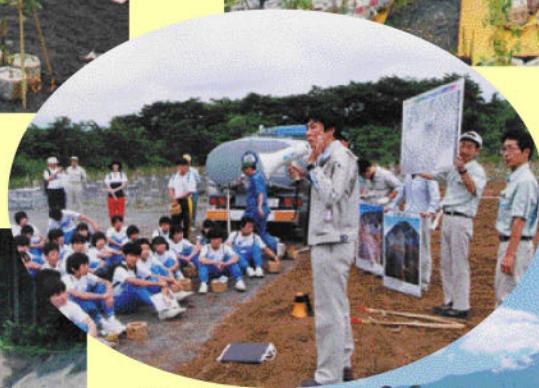


▲西富士中学校(230名)



▲貴船小学校(122名)

▲5年生122名が作成。



▲真剣な表情で説明を聞く吉原第二中の生徒たち。



▲吉原第二中学校(240名)

▲2年生240名が作成。



▲上井出小学校(104名)

▲どう？わたしたちが作ったポット！



▼こんなにたくさんでき上がりました。

▲西小学校(97名)



▲白糸小学校(69名) ▲植樹をやり遂げ晴れやかな表情の児童たち。



▲井之頭中学校(60名) ▲勇壮な富士山を背に植樹。

浅間橋のご紹介



▲完成した浅間橋

浅間橋は、富士宮市山宮地内の登山道路から国道469号を結ぶ富士宮市道の溜野沢に架かる橋で、前後の市道拡幅が終わっていたため、地元からも早期の架け替えが要望されていました。平成12年度の溜野沢の砂防工事に係わる河道拡幅に伴い、富士宮市にも費用負担していただき、歩道付きの2車線橋梁が完成しました。



▲浅間橋を渡って通学している山宮小3年
赤池かんなさんから寄せされました。



▲浅間橋を渡る山宮小の児童たち



▲施工前の浅間橋

山宮小のみなさんは、通学路にもなっている、この浅間橋付近に植樹を行ないました。広く、安全な新しい橋が架かりましたが、工事のため、土だけの状態になってしまった橋のまわりに植樹をし、緑を再生します。今回植樹した木々たちと浅間橋は、これからも通学する子供たちを、末永く見守っていくことでしょう。



▲山宮小学校

富士山直轄砂防30周年記念事業が 「全建賞」受賞! 特殊部門で

過去5年間に於いて4回受賞しています



▲「全建賞」受賞記念の楯

おもな事業

●30周年記念式典・シンポジウム

平成11年11月17日、「富士山の昨日、今日、明日」をテーマに、約1,200名の来場者にて、青木玉氏の講演と、映画「崩れ」の上映、シンポジウムが行われました。
平成12年12月22日は、「新世纪へFUJI YAMAを伝えるために」をテーマに、約800名の来場者にて、今井通子氏の講演と、「御中道ぐるっと360度」のVTR上映、シンポジウムが行われました。

●富士山御中道 「ぐるっと歩こう360度」

平成11年9月11日～12日、と平成12年9月30日～10月1日に行われました。富士山の中腹五合目付近を一周する「御中道」を歩き、富士山の実態と自然を体験するとともに各渓流上流部の荒廃状況や森林の観察目的に、平成11年は医師で登山家の今井通子氏、2回目の平成12年は登山家の賀田宗氏を招いて実施されました。一般からの応募者や、富士山の研究者、マスコミ関係者、行政担当者などが参加し、2日がかりで大沢崩れを渡り、御中道を一周しました。

●幸田文『崩れ』 の映画化

富士山大沢崩れの姿、実態を紹介するため、作家、幸田文さんが偉大な自然の営力により形づくられる崩壊地にインスピレーションをかき立てられ執筆した随筆『崩れ』をもとに、ハイビジョン映画「幸田文『崩れ』富士山大沢崩れ」(約12分)を、青木玉さんの監修で制作しました。

その他の事業

- 現場見学及び有識者等の現地案内
- 富士山大沢崩れと御中道見学会
- 大沢崩壊地クイズウォーカー
- 富士山火山防災講習会
- 「富士山への手紙・絵コンクール」表彰式・講演会
- 学習会・出前講師
- 「富士山学習」への協力

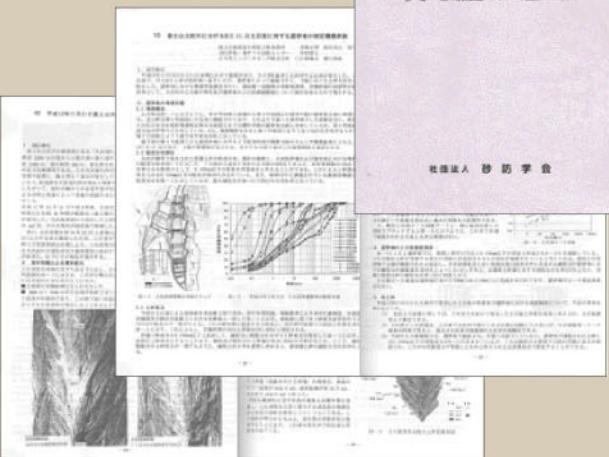
平成13年度 砂防学会研究発表会報告

平成13年度の砂防学会の研究発表会が5月16～18日に山口県山口市において開催され、富士砂防工事事務所からは4名が参加しました。

斜面崩壊、地震、土砂流出、環境防災、火山砂防など12課題、計114課題の研究発表が行なわれましたが、富士砂防に関する口頭発表7題、ポスターセッション3題と、活発な調査、研究の成果が報告されました。今年は特に平成12年11月に発生した大規模な土石流の発生、流出及び砂防施設による捕捉における量的・質的な実態把握と多方面からの解析・評価に関する発表が7題にのぼりました。

▶富士砂防に関する研究発表(口頭発表)

- 平成12年11月21日に富士山大沢川で発生した土石流の実態
- 溶岩地域で発生する土石流の移動特性について——平成12年11月21日 足取川支川竹沢土石流
- 平成12年11月21日に富士山大沢川土石流における発生源の量的質的変化
- 富士山大沢川の平成12年11月21日土石流に対する遊砂地の捕捉機能評価
- 富士山大沢川土石流の遊砂地における堆積再現シミュレーション
- ヘリコプターによる斜め写真を用いた富士山源頭部の崩壊解析
- 富士山大沢扇状地の国有地管理について



▶富士砂防に関する研究発表(ポスターセッション)

- 富士山南西野渓における土砂移動と植生分布に関する考察
- 富士山における火山防災と周知啓発
- 大沢扇状地における過去1000年間の土砂生産と形成史

FUJI SABOへ海外からの来訪者

インドネシア共和国砂防技術研修



▲大沢崩れ見晴台にて記念撮影

7月18～19日に、インドネシア国居住・地域インフラ省(旧・公共事業省)でメラピ火山及びスマル火山の緊急砂防事業を担当しているエディ・サソンコ副所長ら5名が研修に訪れました。

当国に'94～'6年に派遣されていた花岡所長とは、メラピ火山・スマル火山の噴火直後の対策事業を、一緒にプロジェクトの立案採択のため苦労した仲でした。再会を喜ぶとともに砂防施設と大沢崩れを踏査し、事業のすすめ方など活発に意見を交わしました。

平成13年度火山学・砂防工学集団研修



▲雪の残る中、御中道を踏査

5月21・22日、国際協力事業団(JICA)による火山学・砂防工学集団研修の一環として、中国・ホンデュラス・インドネシア・フィリピンから5名の研修生が訪れました。

富士砂防管内の砂防事業の計画立案、施設及び監視システムによる土砂災害対策の内容と効果等をスライド・ビデオ等による講義と、現地見学で研修しました。

特に大沢崩れへの現地調査は例年ない積雪のため、かんじきを履いて御中道を踏査しました。

富士山源頭部調査工事

平成13年度 富士山源頭部調査工事 4の滝保護工に着手

富士山源頭部調査工事は、大沢川源頭部の峡谷域の5合目付近において大沢崩れの拡大を防ぐ工法を開発することを目的として厳しい環境の中、取り組んでいます。

平成13年度においては、様々な対策工事を実施しますが、特に滝の侵食後退を防ぐための滝保護工及び斜面崩壊を地中内部から補強するボーリンググラウト工を実施します。

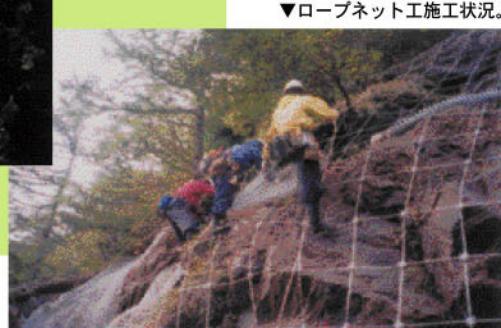
滝保護工

大沢崩れの源頭部には13の大きな滝があり年々侵食され、「2の滝」では1919年から80年間で約35mも侵食後退し、大沢崩れ拡大の一つの要因とされています。このため、13年度から3年計画で「4の滝」の崩壊防止に着手し、今年度は作業環境の安全確保のため斜面対策としてロープネットを施工します。



▲4の滝下流より望む。

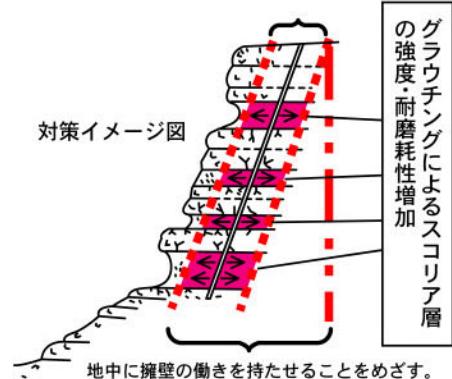
ロープネット工施工状況



▼ロープネット工施工状況。

斜面崩壊対策

大沢崩れの拡大抑制のため、斜面崩壊をいかに止めるかを検討しています。今年度は、地中内部の対策工を具体化するため斜面上部からボーリング孔を掘削しグラウチングにより脆いスコリア層の強度と耐磨耗性を高めることを試みます。



調査工事現場の現況

A斜面の崩壊状況



左岸スコリア層の洗掘状況



平成12年11月21日に発生した記録的な土石流により、調査工事現場の左岸渓岸のスコリア層がえぐられる様に洗掘されました。溶岩層の崩壊も著しく、これに対し早急にスコリア層を補強することが課題となっています。また、右岸斜面(A斜面)は、昨年から小崩壊が多発し、5月中旬においても高さ約5m・幅約10mにわたり崩壊していることが確認され、緊急な対策が必要となっています。

お知らせコーナー

大沢崩れと御中道見学会

第1回・第2回は無事に終了しました。

富士山の大沢崩れは、年間平均16万立方メートル(ダンブ3万2千台)の土砂が崩れています。

この大沢崩れの荒廃状況を、皆様ご自身の目で確かめて、自然の実態と砂防事業について理解を深めていたくための見学会を今年も行います。参加ご希望の方は、下記の要項にてお申し込み下さい。

■対象:原則として県内在住の方 ■定員:35名(1回あたり)

■実施日:第3回／9月26日(水) 申込締切日 9月12日(水)
第4回／10月19日(金) 申込締切日 10月5日(金)

■参加費:1,000円(交通費及び保険料)

■コース:集合／富士宮市浅間神社正面大鳥居(8:20)
湧玉の池東バス停(8:20)——バス 富士スバルライン
御庭(10:30)——歩 御中道・大沢(12:30)——昼食
——歩 御庭(15:00)——バス 正面大鳥居(17:00)

■申込方法:往復ハガキに住所・電話番号・希望日(複数可)・氏名・年齢(ご家族・グループの場合は全員と代表者)を記入して、締切日までに下記の所へ申し込んでください。
〒418-0004 富士宮市三園平1100番地 国土交通省 富士砂防工事事務所
TEL.0544-27-5221

Eメールでも応募できます

件名は御中道本文に必要事項を明記の上
chayama-m85aa@cbm.mlit.go.jpまで

※見学希望者が多い場合は抽選とします。見学いただく方へは、その旨別途ご連絡いたします。

■その他:1.コースには歩道での山歩きが4時間程度入ります。小学生の参加は高学年で父兄同伴とします。
2.見学コースには危険な所もありますので、見学者には別途配付する見学案内を遵守していただきます。

第3回・第4回 参加募集!!

▼大沢崩れ断面



▲昭和51年7月、大沢崩れを訪れた幸田文

締切り
せまる!
9月16日(日)
消印有効

第6回 富士山への手紙・絵コンクール

富士山から学んだこと、元気づけられたこと、美しい富士山をいつまでも残していくために…、
富士山と共に生きている私たちの富士山に対するそれぞれの思いを手紙に、絵に描いて送ってください。

応募要項

■手紙部門

応募資格:小学生以上の方ならどなたでも応募できます。

作品規格:一人1点(未発表のもの)、ハガキ400字以内

■絵部門

応募資格:どなたでも応募できます。

作品規格:一人1点、未発表のオリジナル作品に限ります。画材や表現方法に制限はありませんが、クレヨンなど他の作品を汚すおそれのある画材はご遠慮ください。用紙は四つ切を使用してください。

審査賞:特にすぐれた作品を入賞作品として表彰します。

審査委員長 村松友視(作家)

応募期間:平成13年7月1日(日)～9月16日(日)(当日消印有効)

応募先:〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町150番地

富士宮市教育委員会 学校教育課

富士山への手紙・絵コンクール事務局

応募方法:詳しくは6月中旬に主催者が配付する「応募要項」をご覧ください。

主 催 富士宮市・富士宮市教育委員会

(社)富士宮青年会議所・国土交通省富士砂防工事事務所

発 表:平成13年11月上旬入選者及び所属学校長に直接連絡

するとともに新聞等で発表します。

表彰:平成13年12月9日(日)富士宮市民文化会館

情報提供のお願い

富士砂防が関係する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験された方の情報提供をお願いいたします。

連絡先

富士砂防工事事務所

担当／建設専門官・茶山、または調査課長・小泉まで

TEL.0544-27-5221 (内線516, 351)

お問い合わせ先

■国土交通省富士砂防工事事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100

TEL.0544-27-5221

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

■富士宮砂防出張所

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出826-1

TEL.0544-54-0236